

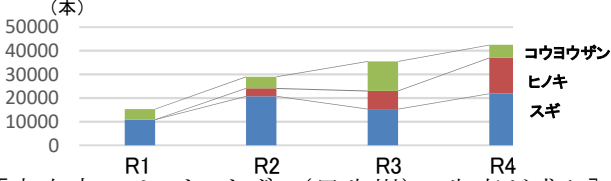
新たなコンテナ苗生産技術導入(ペーパーポット)による生産コストの低減

1. 松江管内のコンテナ苗生産の概要

【生産者】

松江市：野呂樹苗生産組合
安来市：しまね東部森林組合、個人生産者2名

【管内コンテナ苗生産量の推移】



[安来市ではコウヨウザン(早生樹)の生産が盛ん]

2. コンテナ苗生産の課題

(1) コンテナ苗の課題

コンテナ苗は通年で植栽が可能であり、伐採後速やかに植栽を行う一貫作業には不可欠。

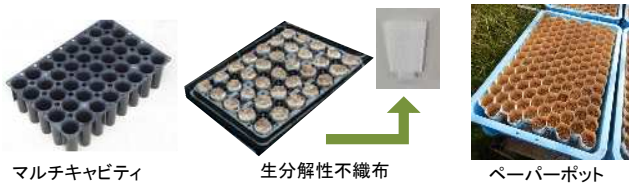
従来の裸苗の出荷単価(生産者価格)が90円/本に対し、コンテナ苗は180円/本と高く、価格低減が課題。

⇒ 当面の目標価格：140円/本



(2) コンテナ苗の特徴

	コンテナ苗			裸苗
	マルチ(H26~)	不織布(R2~)	ペーパーポット(R3~)	
植栽時期	通年	通年	通年	春・秋
出荷単価	180円	180円	180円	90円
得苗率	中	高	高	高
配置換え	×	○	○	×



(3) コンテナ苗生産で見えてきた課題

出荷単価を低減するためには、得苗率を高めることが重要であり、個々の苗の成長を揃えるための配置換えが可能な不織布・ペーパーポットが有利。不織布は原材料費(※)が高い。

3. ペーパーポット苗生産の取組

(1) ペーパーポット導入の経緯

樹苗生産者 伊藤耕治氏(安来市)がR3年に中山間地域研究センターの助言を受けながら試験的に栽培を開始。

樹木の苗では九州で先駆的に導入されている技術で県内生産者では初の試み。

R4年に林地への植栽試験を実施した結果、他のコンテナ苗と比べ、成長に大きな差がないことを確認。

(2) 今後の苗木生産計画

R6年からは、ペーパーポットによる生産のみで、7万本の生産を計画。

4. 取組の成果

(1) ペーパーポットによる生産コスト低減

	不織布	ペーパー	比較
原材料費 ※ (単価/1ポット)	13.0円	4.5円	▲8.5円
ハウス内 幼苗育成本数	223本/㎡	520本/㎡	2.3倍

(2) コンテナ苗の出荷価格低減

7万本の生産計画と得苗率70%が達成出来れば目標価格の140円/本及び、収益率約50%が実現する見込み。



生産コストを下げるためには、新しい技術への挑戦は不可欠。これからもアンテナを張り巡らせコンテナ苗生産の先駆者でありたい。

コンテナ苗生産者 伊藤 耕治 氏

5. 課題と今後の取組方向

- (1) 単位面積あたりの生産密度が高いため、病虫害の予防が重要。(特にスギ赤枯れ病)
- (2) トレーが重くなるため、運搬に係る負担軽減対策が必要。